

開催地名	大阪府 岸和田市
開催日時	令和7年1月25日(土)14:00～15:30
開催場所	福祉総合センター
語り部	松井 憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	防災福祉コミュニティ(自主防災組織):95人、一般参加者:19人、職員(危機管理部危機管理課):7人
開催経緯	本市では、現在、防災福祉コミュニティ(自主防災組織)が結成され、平時から地域住民による自主的な防災活動の推進・向上を目的に活動している。また、地域間での防災体制の確立や相互連携を図ることを目的に市内の全防災福祉コミュニティで協議会を結成している。その協議会にて、「被災地での活動等実体験の話を直接聞く機会を設け、地域防災力の向上の参考としたい」という意見があり、防災講演会を開催することとなった。
内容	■ はじめに 本講演では、2014年8月の豪雨による土砂災害の経験をもとに、防災の重要性や、地域住民が取り組むべき防災活動について語られた。災害発生時の状況や避難の経緯、伝承館設立の背景を通じて、自然災害への備えの必要性が改めて強調された。 ① ビデオ鑑賞 講演の冒頭では、伝承館で上映されている2014年8月豪雨による土砂災害の映像が鑑賞された。この映像には、被災者が語る当時の状況や、災害による影響が記録されており、当時の恐怖や避難の困難さが生々しく伝えられた。災害のリアルな映像を見ることで、参加者は自然災害の脅威を改めて認識し、防災の意識を高める契機となった。 ② あの日のこと 講演者は、災害発生当時の状況を振り返り、その恐怖と教訓を語った。 初めて聞くような連続した雷の音が鳴り響き、不安を感じていたという。普段なら聞こえるはずの生活音や車の走行音が途絶えたことに違和感を覚え、さらに異臭が漂い始めた。特に、倒れた木が流される際に生じた裂けた木の香りの異様な臭いがしたことが印象的だったと語った。 息子からの連絡を受け、避難しようと試みたものの、足元が埋まり、身動きが取れなくなる場面があった。家の敷地外へ出るだけで通常であれば数秒の距離が、15分もかかるほどの困難な状況であった。別の時にはレスキュー隊の支援を受け、命を救われたという体験を共有した。 ③ 伝承館ができた経緯 土砂災害の経験を風化させず、次世代に災害の教訓を伝えるため、伝承館の設立が決定された。「被災者自身が運営することに意義がある」との判断から、住民主体での運営となった。 運営方針として、「自分たちと同じような辛い経験を子や孫にさせたくない」という住民の願いが込められている。開館後は、地域の子どもたちや来館者に対し、防災の記録を伝え続けている。 ■ 防災リーダーが行う研修について 防災リーダーは、地域の防災意識向上を担う重要な存在である。本講演では、防災リーダーの役割と、地域住民の意識を高めるための取り組みについて紹介された。 ① 防災リーダーの役割 防災リーダーとして最も重要なのは、日頃から防災意識を高めることである。そのためには、日常的に防災に関する情報を収集し行政の担当者と顔なじみになっておくことが有効である。定期的に新たな情報を得ることで、地域の防災対策を適切にアップデートすることが求められる。 また、命を守るためのテクニックやスキルを身につけることも重要である。しかし、自身が被災した場合、すぐに支援活動にあたることは難しくなる。そのため、近隣の防災リーダー同士で連携を強化し、協力体制を確立しておくことが不可欠である。 ② 防災のイベント 市民の防災意識を向上させるためには、参加型のイベントを実施することが効果的である。講演の中では、具体的な防災イベントの例として、キッチンカーを活用した催しの提案がなされた。

また、防災学習会では、単に講師が一方向的に話す形式ではなく、参加者が主体的に学べるような工夫が求められる。特に、クイズ形式を取り入れることで、楽しみながら知識を深めることが可能となる。実際の災害時を想定したロールプレイングやワークショップを取り入れることで、実践的な防災力を身につけることができる。

■ まとめ

本講演を通じて、災害の教訓を伝え、防災の意識を高めることの重要性が強調された。特に、災害時の経験を記録し、次世代に伝承する取り組みは、地域全体の防災力向上に寄与するものである。また、防災リーダーの役割として、日常的な情報収集や、近隣との連携強化が必要であることが示された。

さらに、市民が主体的に参加できる防災イベントを企画し、防災意識の定着を図ることが重要である。クイズ形式の学習や実践的な訓練を通じ、地域住民一人ひとりが災害時に適切な行動を取れるよう準備していくことが求められる。

災害はいつ起こるかわからない。しかし、備えをしっかりと整えることで、被害を最小限に抑えることができる。講演者の体験を通じて、「防災は、日常の一部として意識すべきもの」というメッセージが伝えられた。



開催地より

災害時の対応について、「公助」には限界があり、「自助」特に「共助」の役割が地域防災力に不可欠であると痛感した。また、実災害を体験している語り部の体験談を聞くことで、災害について我が事として感じてもらうことができたのではないかと感じた。今後の防災講座にて今回の講演内容等を活かしていきたいと考えている。